

ガケ書房

今出川通から白川通を上っていくと突如現れる、車が突き出た建物。気になっていた方も多いのではないでしょうか。そんな個性的な佇まいを持つ「ガケ書房」。店長さんのインタビューも交えて紹介します。あなたの書店に対する常識が覆されること間違いなしですよ。（スピカ）



店の中に入ると、右手に雑誌の棚が、真ん中にはオススメの本が並んだテーブルと一般書の棚が。左手に目をやると、壁にはTシャツがかけられ、平台には本と共に、個性あふれる雑貨が置かれています。

これらは、全て売り物なのです。最初は店長さんが探されたものを置いていたのですが、最近ではわざわざ東京から持ち込んでくる作家さんもいるのだとか。



▲Tシャツや雑貨が並び、奥の棚では人に薦めたい本を発注し、紹介文を自分で書いて並べることができます。

さらにその奥には、CDの棚。メジャー・マイナー、新旧を問わず、店員さんが良いと思ったものが置いてあります。アーティストから直接仕入れたものも多くあり、ライブもしばしば店内で行われています。

CDの棚のそのまた奥には、「弾きまくりのギター」と呼ばれるギターまでもが。

書店の商品として定番の本や雑誌、マンガも、店員さんが良いと思ったものだけを置いています。

「良いと思うものをオールジャンル並べた究極の普通の本屋」。これこそがガケ書房の真髄なのです。

車は、閉鎖的なイメージを崩し、覚えてもらいやすくするためです。



▲本屋なのに、なぜかギター。その上には「弾いてやって下さい」という貼り紙が。傍らのサインは菅我部恵一さんのもの。



店長の山下さんにお話を伺いました

ガケ書房という名前の由来は？

10年ほど前に東京で自費出版の雑誌を作って、架空の出版社名としてつけた名前なんです。カタカナで意味のない、記号的な言葉にしようと考えて。

なぜこのようなお店を開こうと？

僕は、いろいろな本に関する仕事をしてきて、古本屋で働いた時は店を任されて、自分のルールで店を作れたんですよ。で、オモロイなあと思って。同時期に、嫁が幸せそうな瞬間があって、その時に僕も幸せな気分になっていることに気付いたんです。それならみんなが幸せにな

れる場所を作って、それを見ていようって思っ

どうして、北白川にお店を開こうと？

この辺はスタイルを自分で見つける若者が多いです。ちゃんと人が住んでるっていうのも大きいですね。

置くものを選ばれる基準は？

僕らが本を仕入れる時はタイトル、表紙、あらすじぐらいしか分からないんですよ。それは、お客さんが棚の前に立ったときに入ってくる情報と一緒になんです。そのお客さんの視線で仕入れるんです。

お店のコンセプトは？

「みんなで創っていく店」。みんなの意見でどんどん変わっていったんで。

京大生に一言お願いします。

年取った時に、若者を羨んで「あんなことやっていいなあ」っていうよりも、「あんなこと俺らもやったなあ」って言える方がいいって思っ

☆☆Information☆☆

御蔭通 4
白川通 ☆ガケ書房
今出川通

電話：075-724-0071
ファックス：075-722-9403
住所：京都市左京区北白川下別当町33
営業時間：12:00～22:00
不定休（ライブ当日は通常営業をお休みします）

はみだし
すてーじ

そろそろこの程度じゃはみだし心が満たされなくなっただけ
⇒はやまって法的にもはみだしたりなんかしたらだめですよ。

(経・2 あっち)
(おふくろさんが泣きますよ；編)